

26章
エレミヤ書
聖徒伝 247

成長という 信仰者の責務

エレミヤ書 26章

預言者ウリヤの殉教

アウトライン

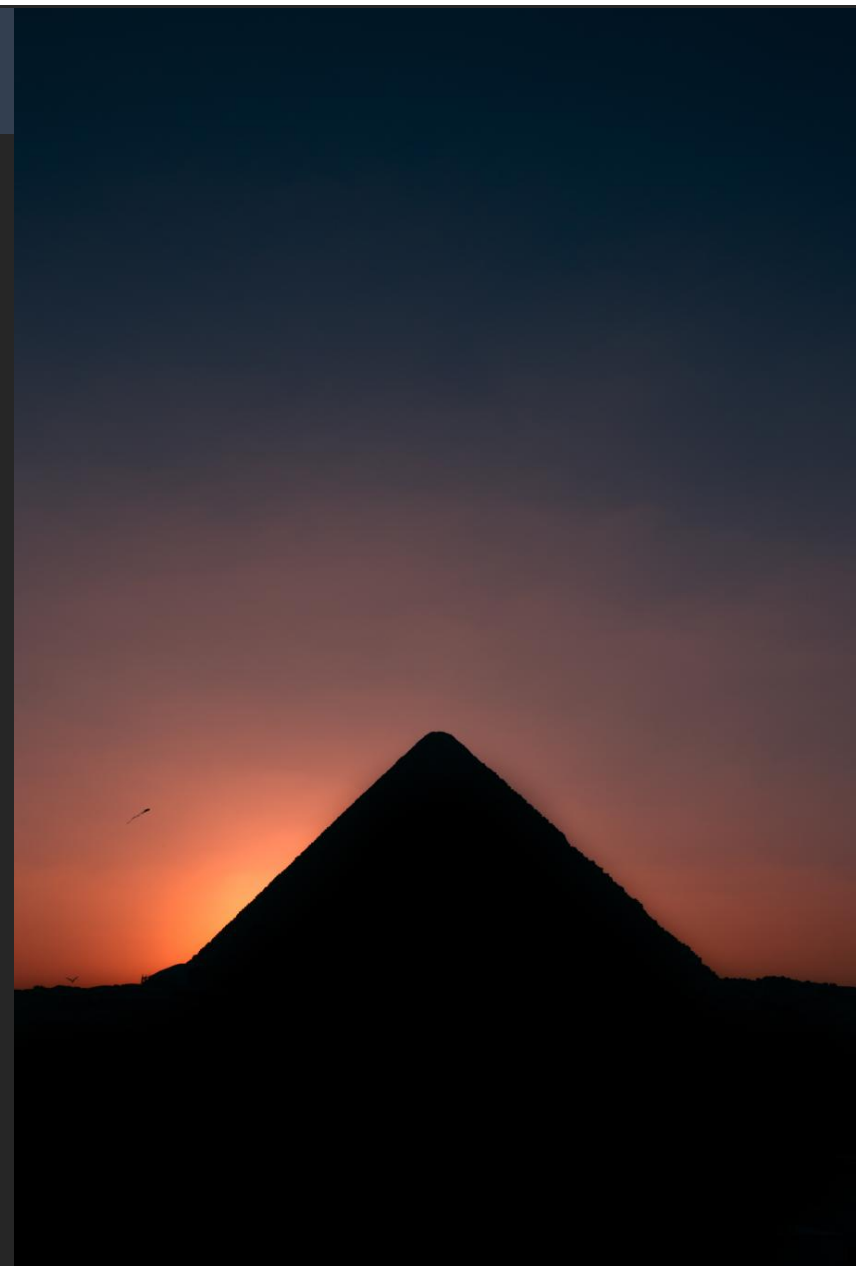
0. イントロダクション

- I. 主の御告げ 26:1～7
- II. 民の反応 26:8～19
- III. ウリヤの死 26:20～24

III. まとめと適用

信仰者に託された、

成長という責務



預言者たちの告げたこと

人の視点からだと、混沌として見えるが…



預言者たちの告げたこと



南北時代

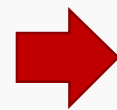


① 直近の
苦難

メシア初臨



② 主の日
大患難時代

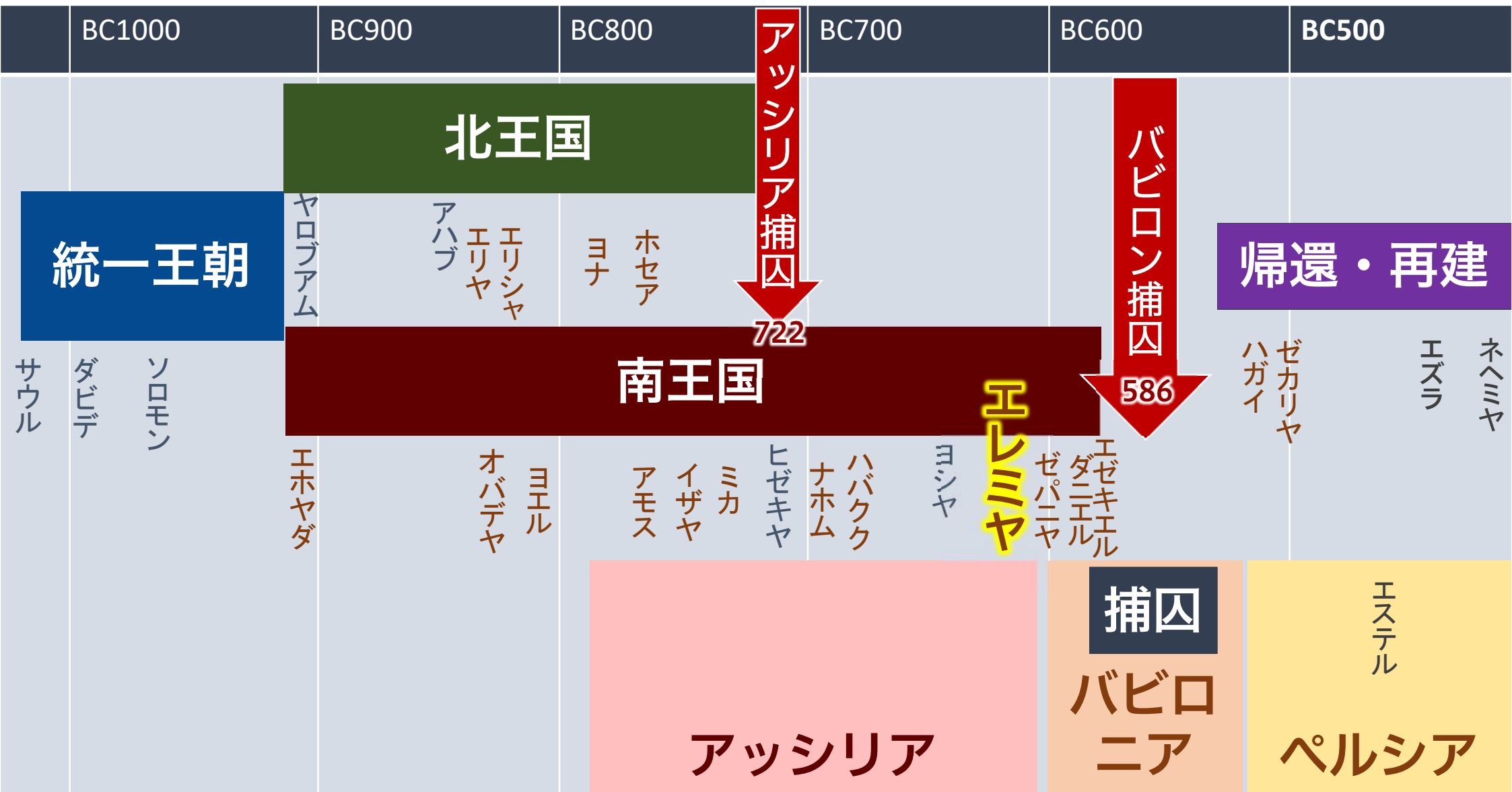


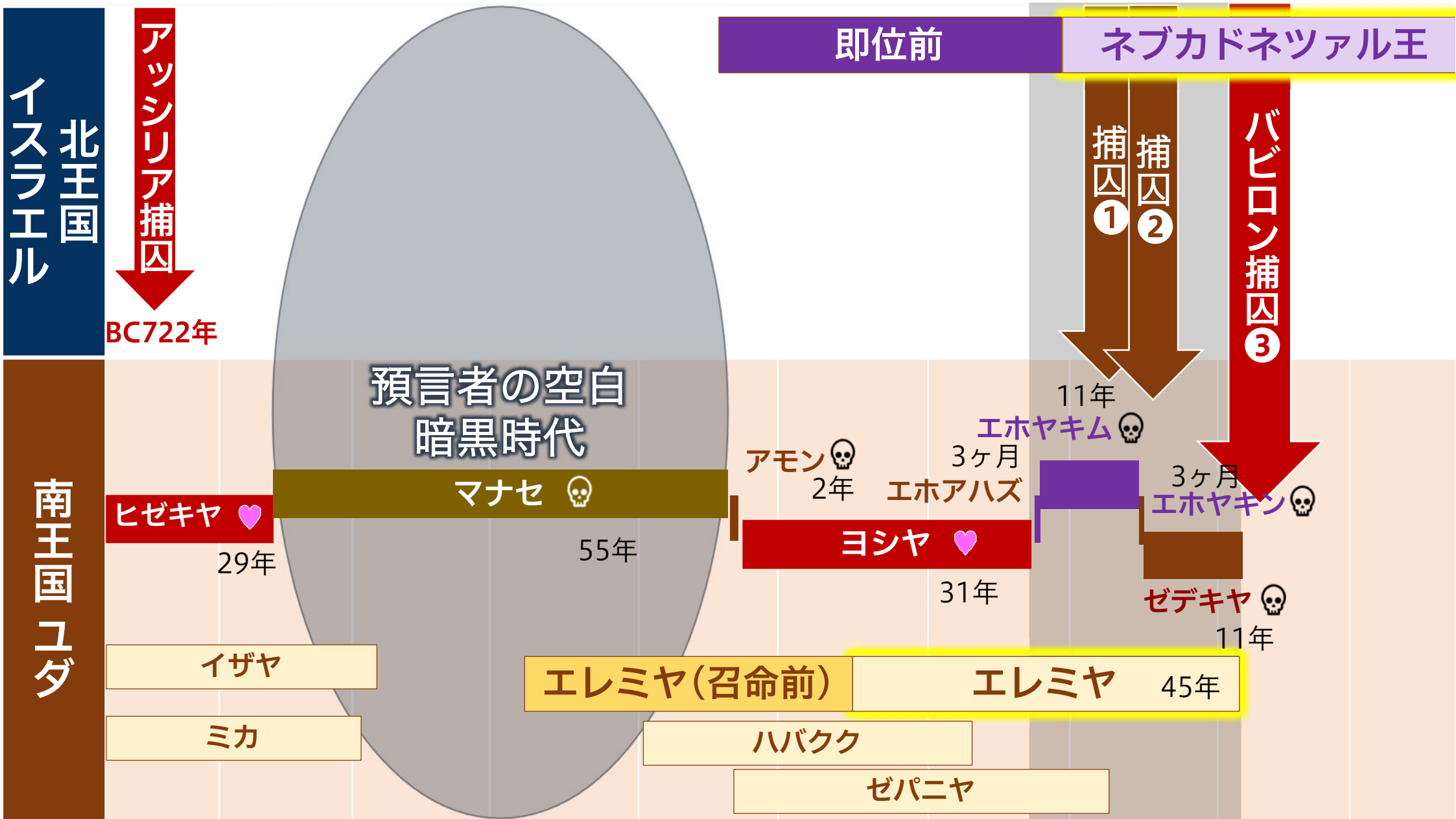
③ 回復
メシア再臨



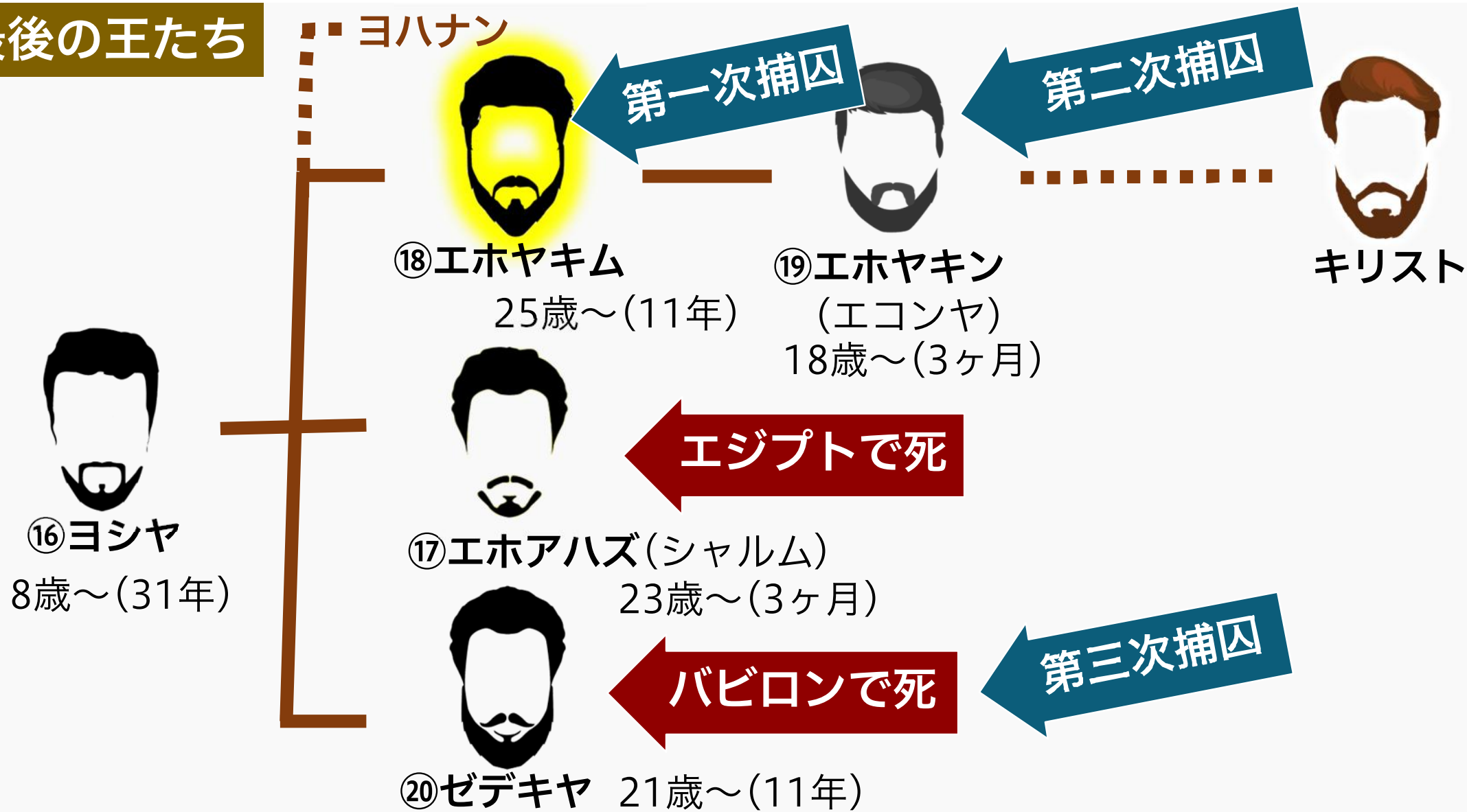
0. イントロダクション

イスラエル王国史





最後の王たち





I. 主の御告げ

エレミヤ書26章1～7節

御告げ

一言も省くな エレ26:1～2

ユダの王、ヨシヤの子エホヤキムの治世の初めに、【主】から次のようなことばがあった。

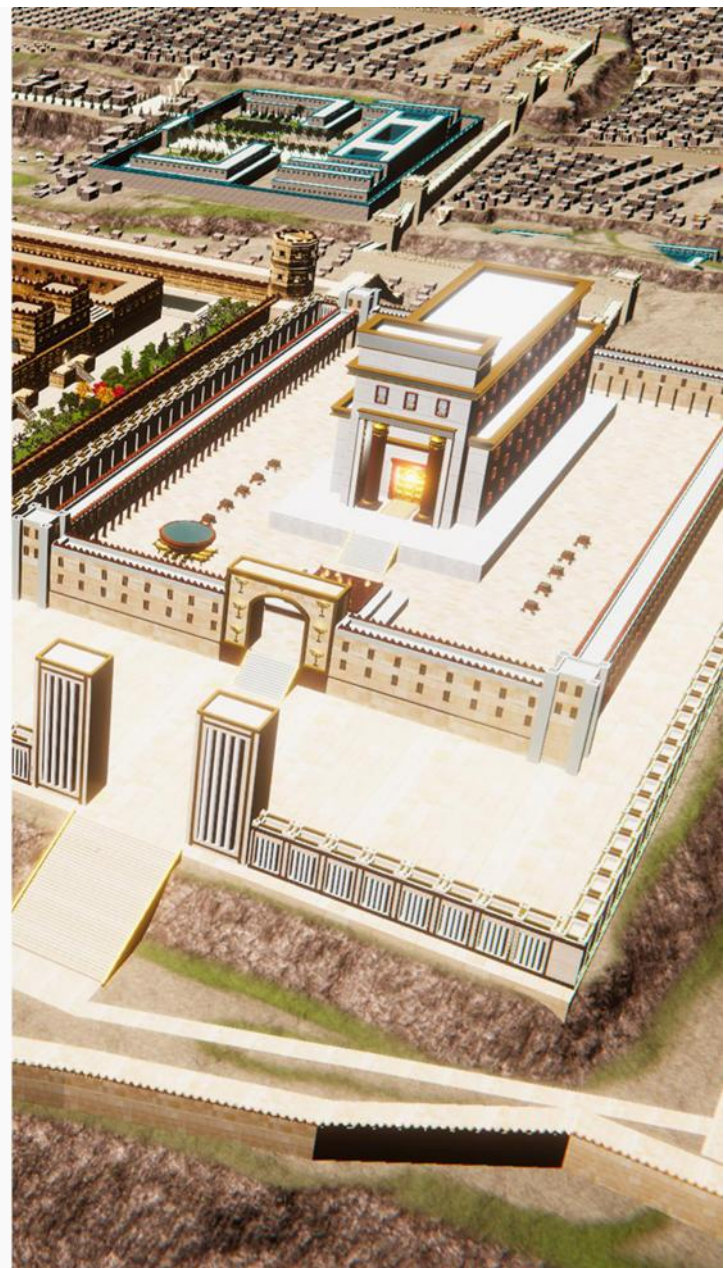
【主】はこう言われた。「【主】の宮の庭*に立ち、【主】の宮に礼拝しに来るユダのすべての町の者に、わたしがあなたに語れと命じたことばを残らず語れ。一言も省くな*。」

*エルサレム神殿の庭

*この節だけの表現

■かつてない厳しい表現による主の命令。

➡迫る裁きを目前に!!



御告げ

主の憐れみ エレ26:3

「彼らがそれを聞いて、それぞれ悪の道から立ち返るかもしれない。そうすればわたしは、彼らの悪い行いのために彼らに下そうと考えていたわざわざいを思い直す。」

- イスラエルへの裁きが迫る中、それでも個々に与えられる悔い改めのチャンス。



憐れみの主

■シナイ山で顕現された主のご性格 出34:6～7

「【主】、【主】は、あわれみ深く、情け深い神。
怒るのに遅く、恵みとまことに富み、恵みを千代まで保ち、咎と背きと罪を赦す。

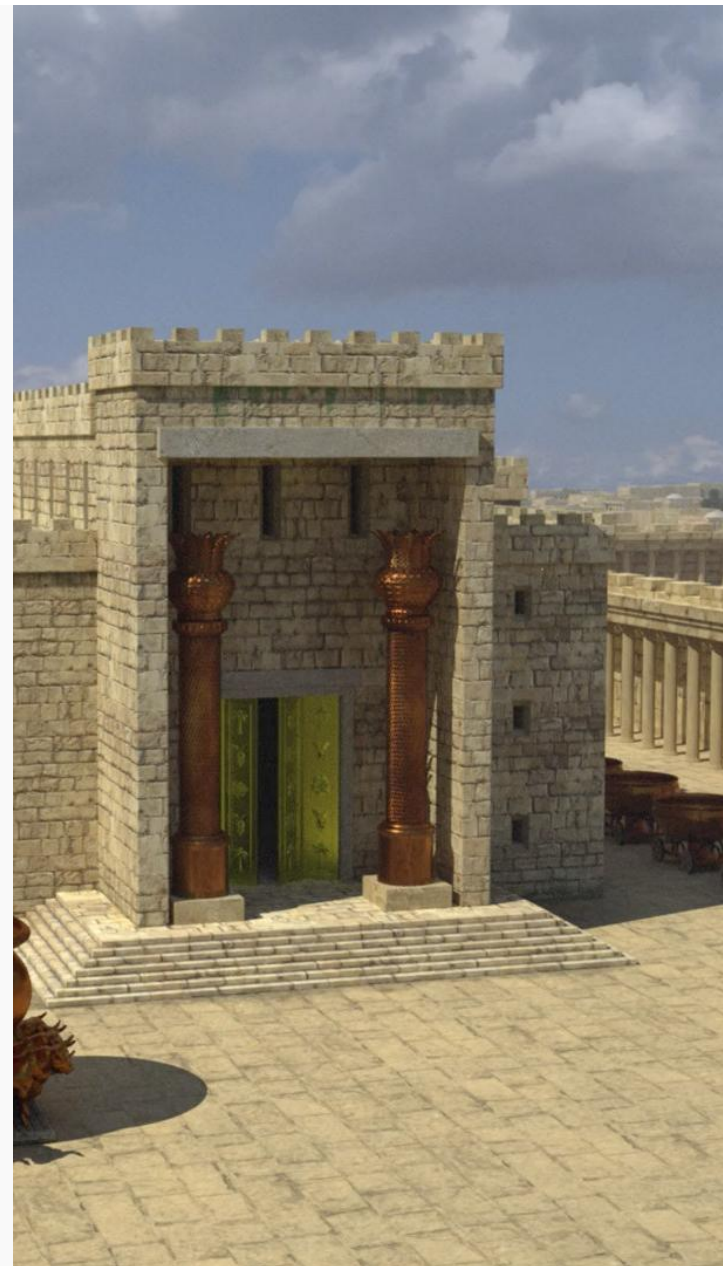
しかし、罰すべき者を必ず罰して、父の咎を子に、さらに子の子に、三代、四代に報いる者である。」

御告げ

神の民の不従順 エレ26:4～5

「彼らに言え。『【主】はこう言われる。もし、あなたがたがわたしに聞き従わず、あなたがたの前に置いたわたしの律法に歩まず、あなたがたに早くからたびたび遣わしてきた、わたしのしもべである預言者たちのことばに聞き従わないなら——実際、あなたがたは聞き従わなかった——」

■ 律法にも、預言者の言葉にも、聞き従わなかったイスラエル。



御告げ

シロのように エレ26:6～7

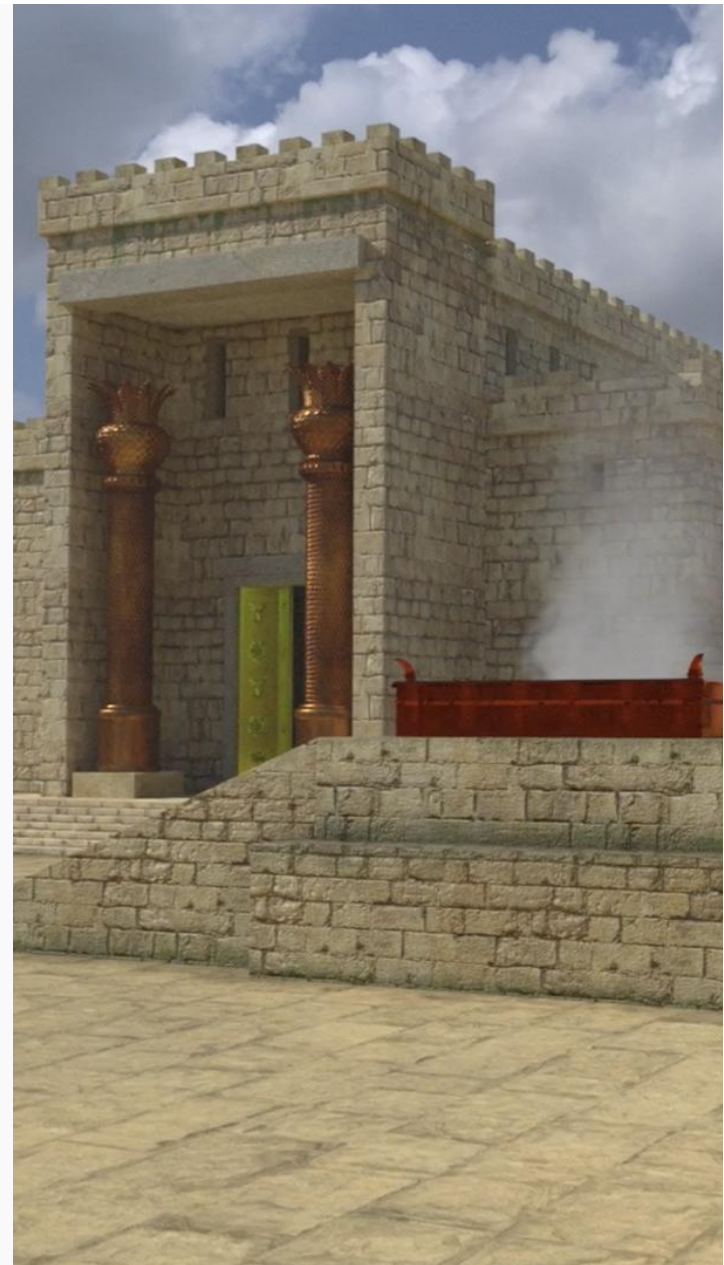
「わたしはこの宮をシロ*のようにし、この都を地上のすべての国々の、ののしりの的とする」

祭司と預言者と民全体は、エレミヤがこのことばを【主】の宮で語るのを聞いた。

＊エリの時代に幕屋が設置。

➡不従順により契約の箱はペリシテが強奪

■ 神殿から、神の栄光が去る時は間近。





Ⅱ. 民の反応

エレミヤ書26章8～19節

御告げ

民の拒絶 エレ26:8～9

【主】が民全体に語れと命じたことをみな、エレミヤが語り終えたとき、祭司と預言者とすべての民は彼を捕らえて言った。「あなたは必ず死ななければならない。なぜ、この宮がシロのようになり、この都がだれも住む者のいない廃墟となると、【主】の名によって預言したのか。」そこで、民全体は【主】の宮のエレミヤのところに集まった。

■ 主の御告げを激しく拒絶し、
エレミヤに詰め寄るイスラエルの民。



御告げ

公的拒絶 エレ26:10～11

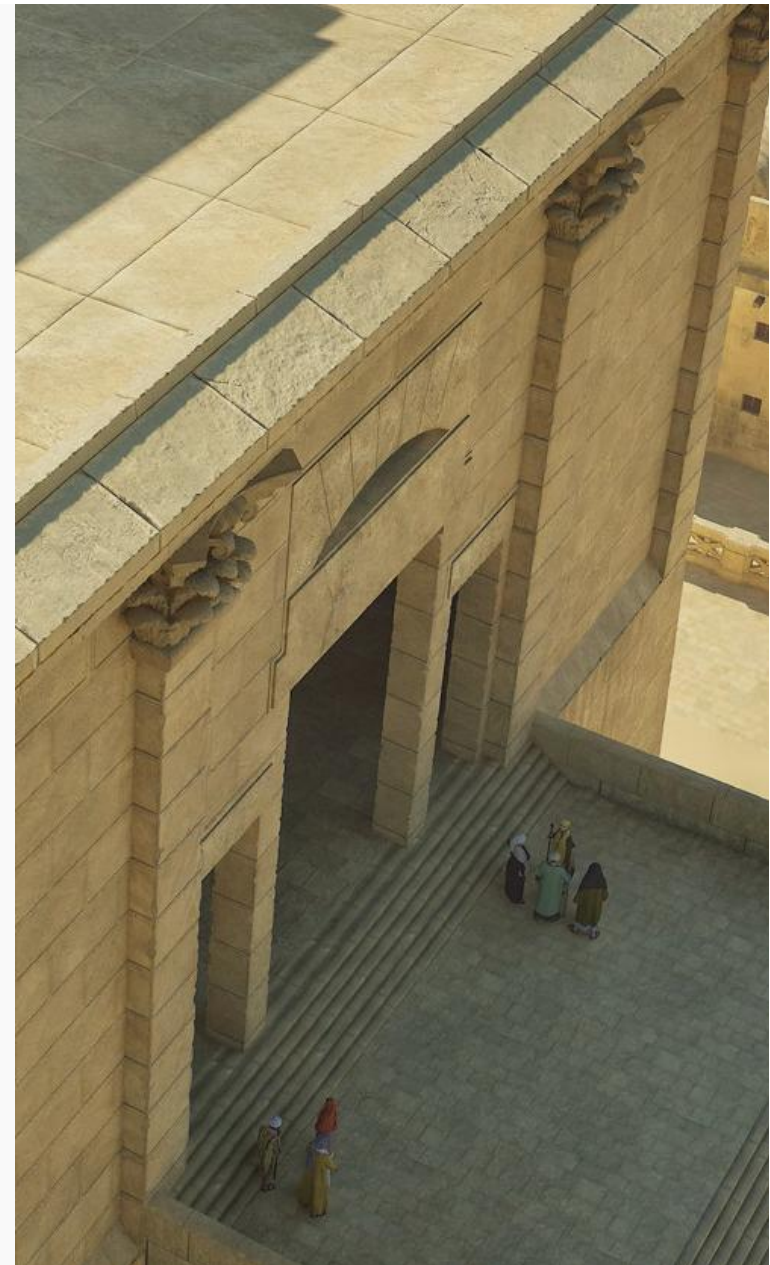
これらのことを聞いてユダの首長たちは、王の宮殿から【主】の宮に上り、【主】の宮の新しい門*の入り口で座に着いた。

祭司たちと預言者たちは、首長たちと民全体に次のように言った。「この者は死刑に当たる。彼がこの都に対して、あなたがたが自分の耳で聞いたとおりの預言をしたからだ。」

＊ヨシヤ王が、宗教改革で再建した門?!

➡司法の間でもある「門」で、裁判が。

■イスラエルは、公式にエレミヤを拒絶。

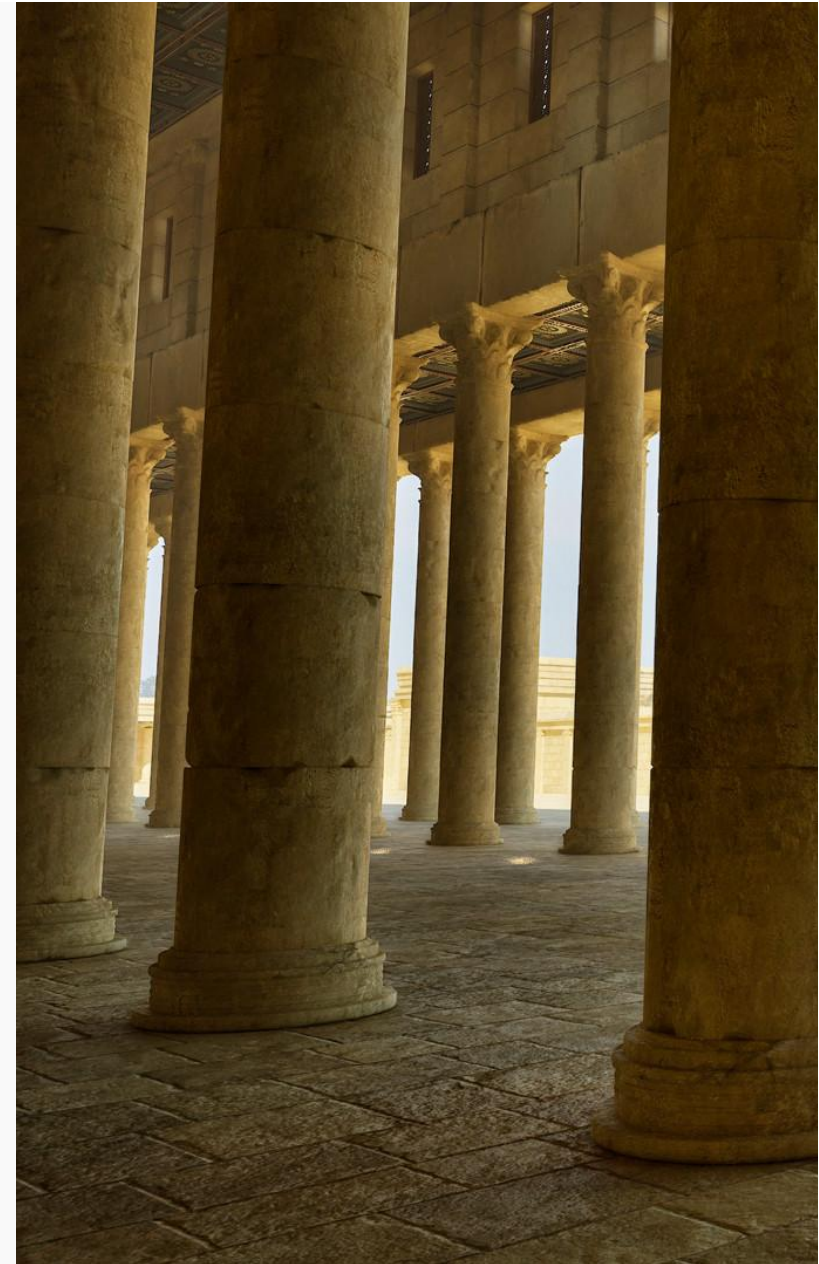


御告げ

預言者の使命 エレ26:12

エレミヤは、すべての首長と民に告げた。
「【主】が、この神殿とこの都に対して、
あなたがたの聞いたすべてのことばを預言
するよう、私を遣わされたのです。」

- 改めて神殿と都の破壊を告げるエレミヤ。
「一言も省くな」と主は告げられた。



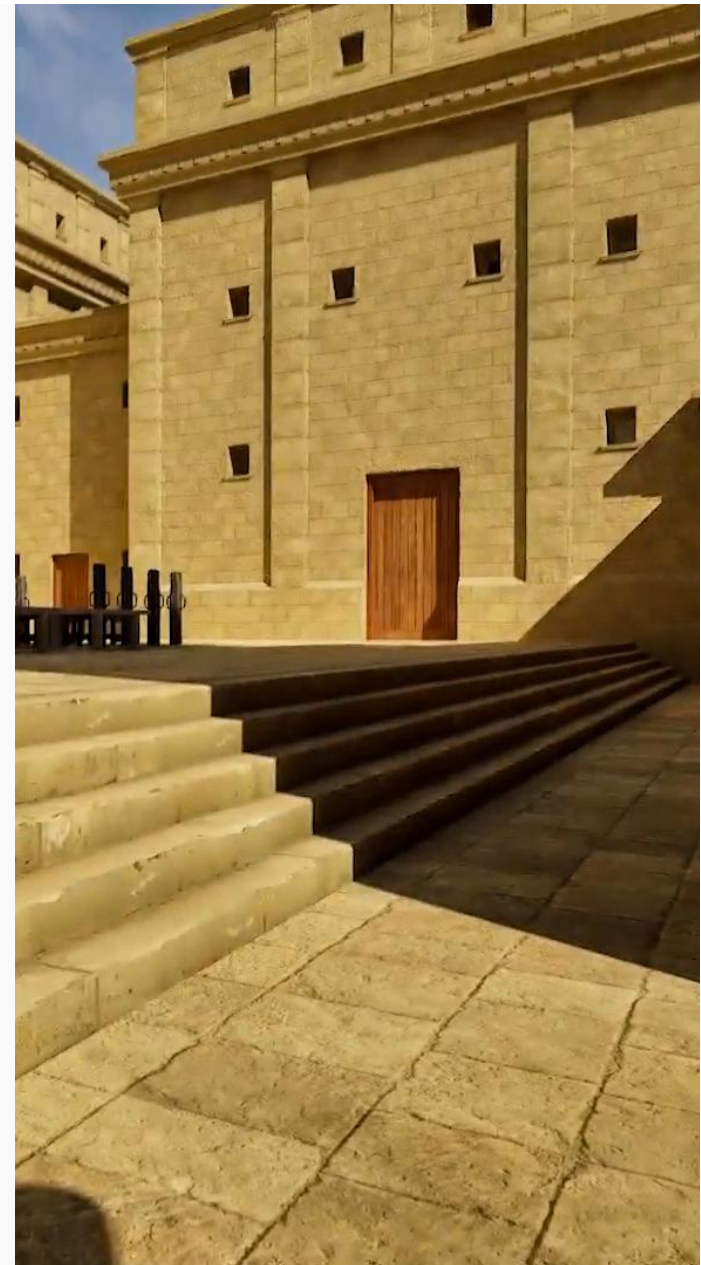
御告げ

命を賭して エレ26:13～14

「さあ今、あなたがたの生き方と行いを改め、あなたがたの神、【主】の御声に聞き従いなさい。そうすれば、【主】も、あなたがたに語ったわざわいを思い直されます。

このとおり、私自身はあなたがたの手の中にあります。私を、あなたがたの目に良いと思うよう、気に入るようにしなさい。」

■ 死を覚悟して、主に忠実に告げるエレミヤ。



御告げ

指導者の責任 エレ26:15

「ただ、もしあなたがたが私を殺すなら、あなたがた自身が咎なき者の血の責任を、自分たちと、この都と、その住民に及ぼすのだということを、はっきり知っておきなさい。なぜなら、本当に【主】が私をあなたがたのもとに送り、これらすべてのことばをあなたがたの耳に語らせたのですから。」

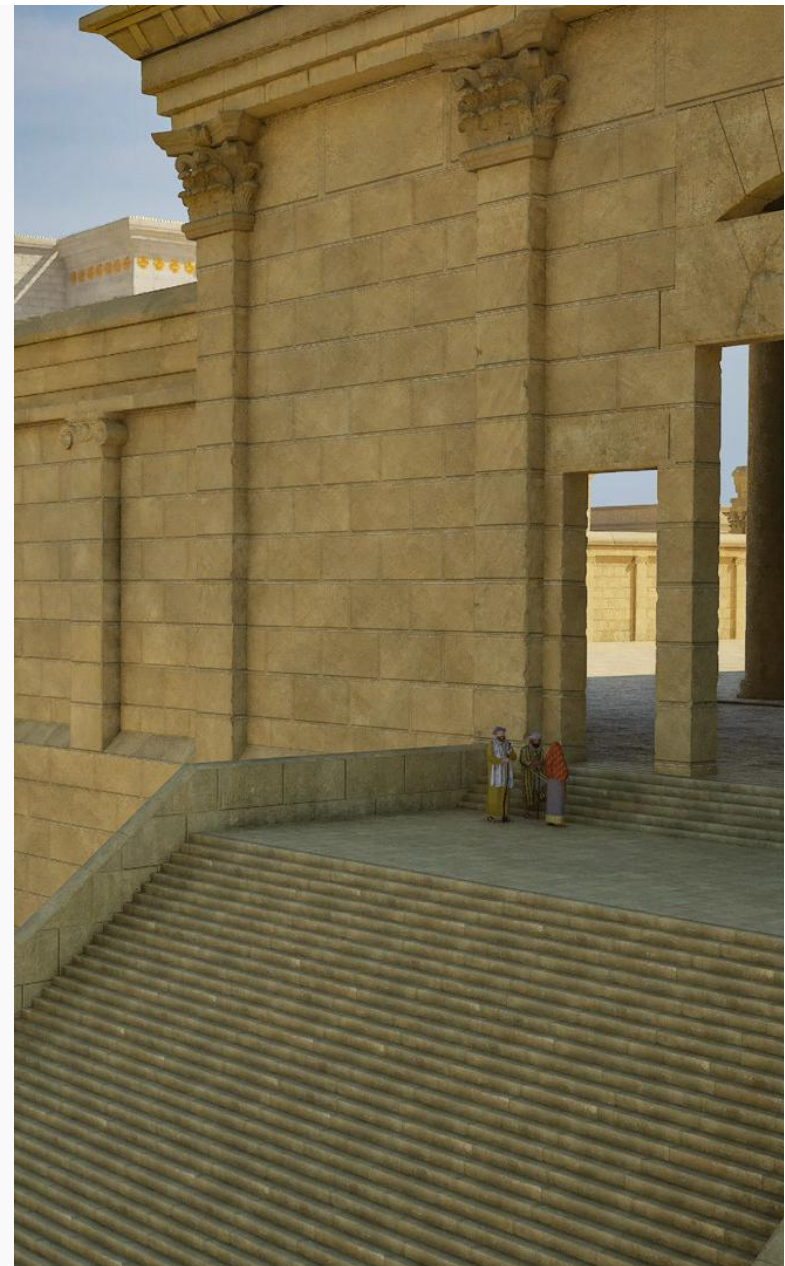
■ 主の御言葉を語る者を拒絶する責任は重大。



応答 残された者たち エレ26:16

すると、首長たちと民全体は、祭司たちと預言者たちに言った。「この人は死刑に当たらない。彼は私たちの神、【主】の名によって、私たちに語ったのだから。」

■ エレミヤの死刑を止めようとする人々が。



応答 伝えられていた預言 エレ26:17～18

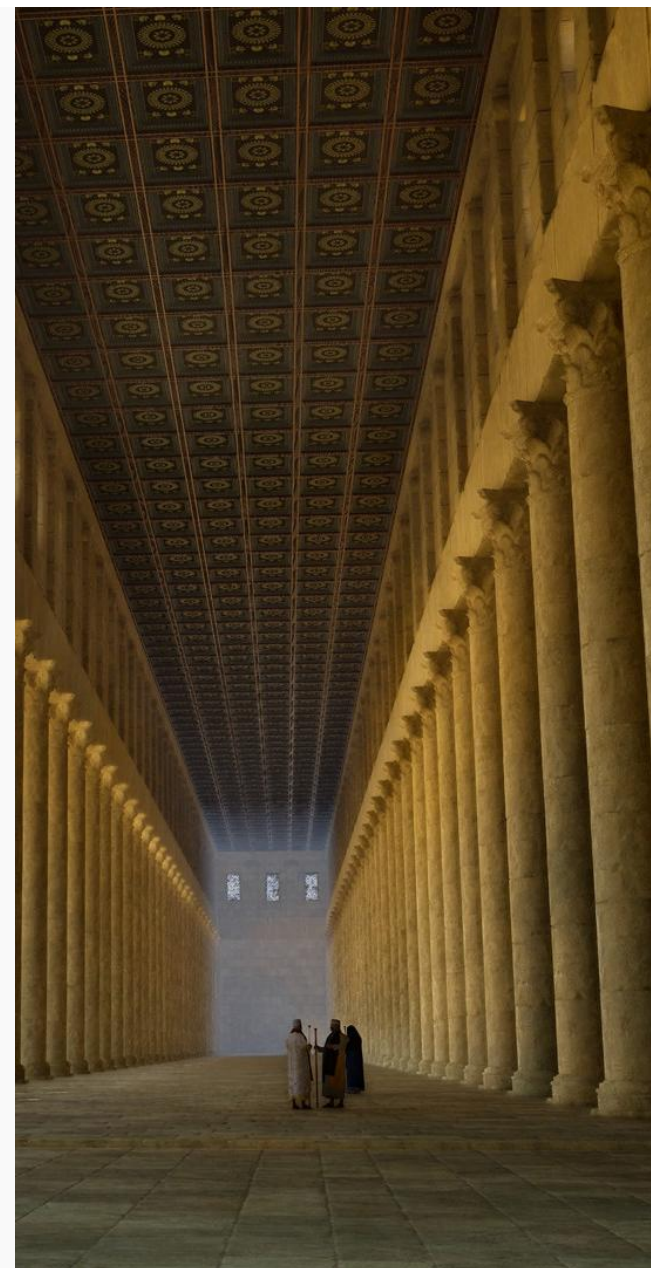
それで、この地の長老たちの何人かが立って、民全体に言った。

「かつてモレシェテ人ミカも、ユダの王ヒゼキヤの時代に預言して、ユダの民全体にこう語ったことがある。万軍の【主】はこう言われる。シオンは畑のように耕され、エルサレムは瓦礫の山となり、神殿の山は木々におおわれた丘となる*。」

＊ミカ書3：12

■ ミカの預言も人々に言い伝えられていた。

※ヒザキヤの章にミカは不記載。

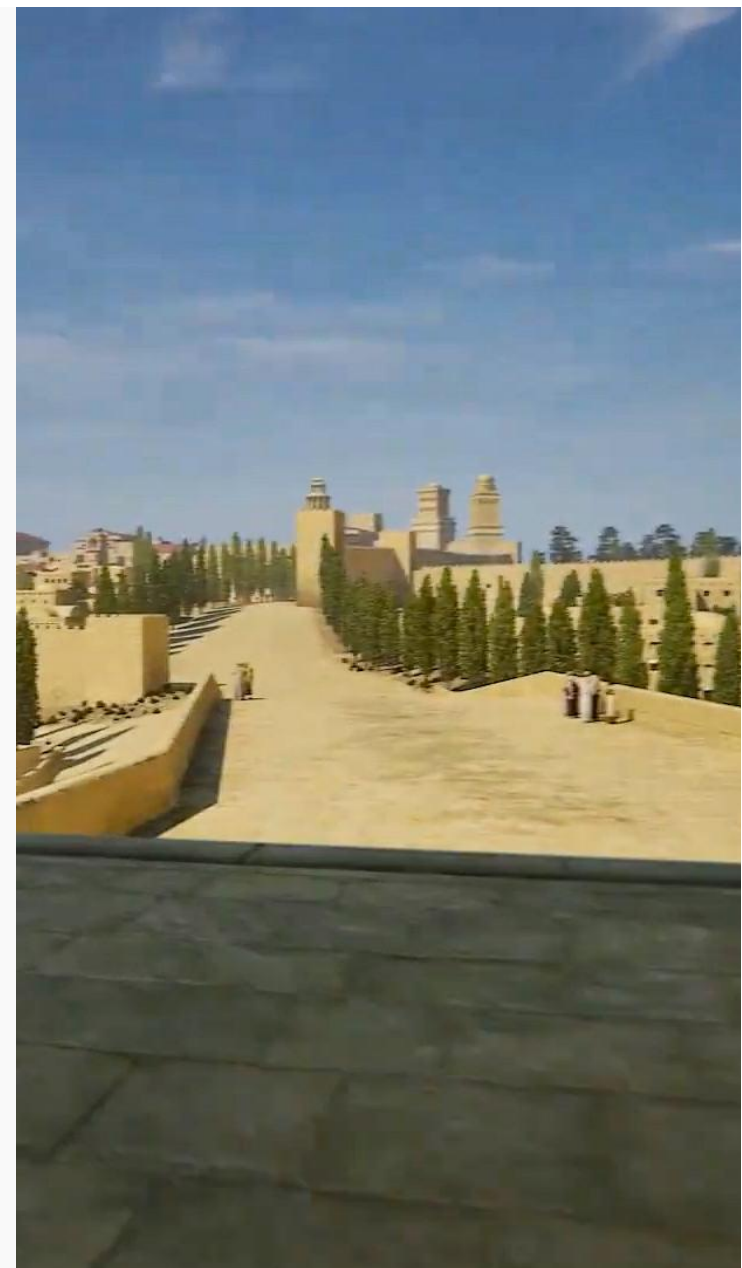


応答 悔い改めの記憶 エレ26:19

「そのとき、ユダの王ヒゼキヤとユダのすべては彼を殺しただろうか。ヒゼキヤが【主】を恐れ、【主】に願ったので、【主】も彼らに語ったわざわいを思い直されたではないか。ところが、私たちはわが身に大きなわざわいを招こうとしている。」

■ミカの預言を受け、民を悔い改めに導いたヒゼキヤのことは覚えられていた。

➡この時代にも残されていた信仰の民
捕囚先でも主に守られることに!!





Ⅲ. ウリヤの死

エレミヤ書26章20～24節

迫害 預言者ウリヤ エレ26:20

【主】の御名によって預言している人がもう一人いた。キルヤテ・エアリム*出身のシェマヤの子ウリヤ*で、彼はこの都とこの地に対して、エレミヤのことばすべてと同じ*ような預言をしていた。

*かつては、同盟を結んだギブオン人の町。

帰還した契約の箱を20年安置。

ベニヤミン族の嗣業の地

*“ヤハウエに聞かれた”“ヤハウエは我が光”

*複数の証人の一人。預言の確かさを証明。



迫害 ウリヤの逃亡 エレ26:21

エホヤキム王、すべての勇士、首長たちは、彼のことは聞いた。王は彼を殺そうとしたが、ウリヤはこれを聞いて恐れ、**エジプト**へ逃げて行った*。

***エジプト**への逃亡は御心に反するのでは？

「今、ナイル川の水を飲みに**エジプト**への道に向かうとは、いったいどうしたことか。

エレミヤ2:18」



迫害 追跡者 エレ26:22

そこで、エホヤキム王は人々をエジプトに遣わした。すなわち、**アクボル***の子**エルナタン***に人々を随行させて、エジプトに送った。

＊“アクボル(口)”

＊“エルヤタン(神は与えられた)”

■ 執拗にウリヤを追い、密告者エルナタンを捕縛のために遣わした王。



迫害

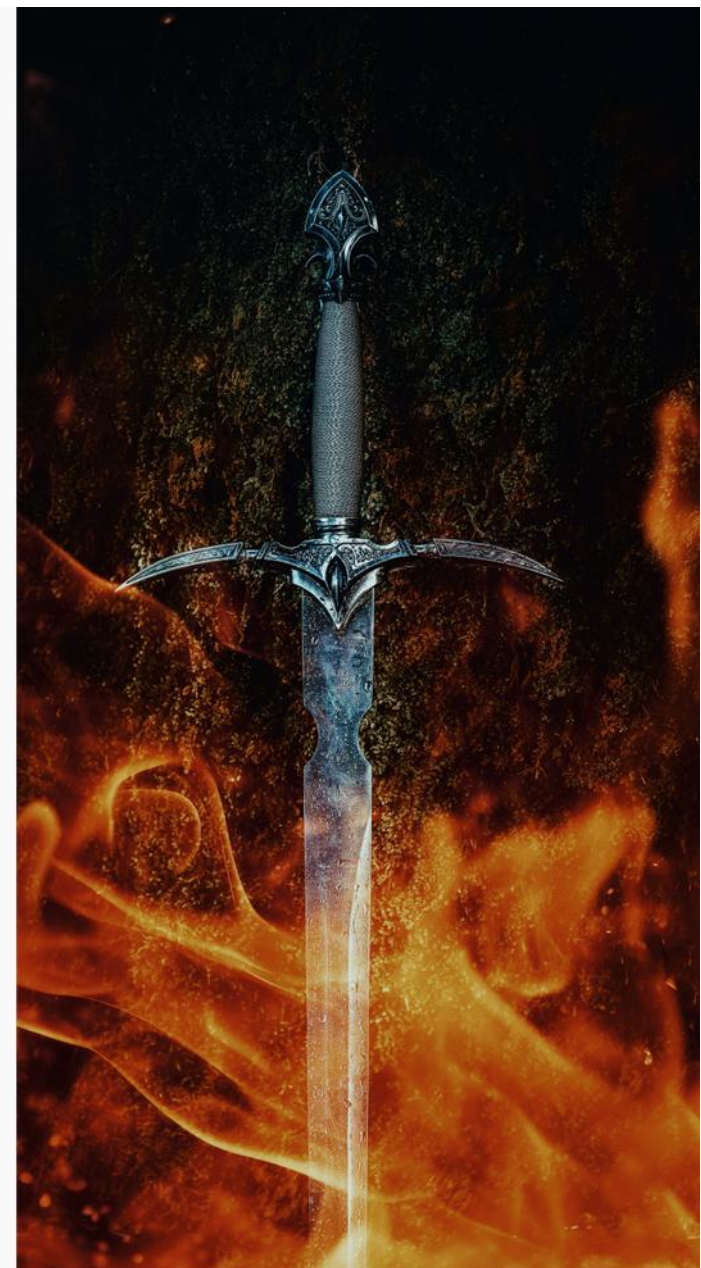
ウリヤの死 エレ26:23

彼らはウリヤをエジプトから導き出し、エホヤキム王のところに連れて来たので、王は彼を剣で打ち殺し、その屍を**共同墓地**に捨てさせた。

「彼はまた、アシェラ像を【主】の宮からエルサレム郊外のキデロンの谷に運び出し、それをキデロンの谷で焼いた。それを粉々に砕いて灰にし、その灰を**共同墓地**にまき散らした。

Ⅱ 列王23:6」

■ ヨシヤ王が、偶像の灰をまいた**共同墓地**に、
エホヤキム王は、預言者の屍を捨てた



迫害 生き延びたエレミヤ エレ26:24

しかし、シャファンの子アヒカム*はエレミヤ*をかばい、エレミヤが民の手に渡されて殺されることのないようにした。

＊“わが兄弟は立ち上がった”

＊“主が任命された者”

■主が一人の残された信仰者を立ち上がらせ、主が任命されたエレミヤを守られた。





Ⅲ. まとめと適用

成長は、信仰者に託された責務

イスラエルのオリーブとアネモネ

主の憐れみ

■ シナイ山で顕現された主のご性質 出34:6～7

「【主】、【主】は、あわれみ深く、情け深い神。
怒るのに遅く、恵みとまことに富み、恵みを千代まで
保ち、咎と背きと罪を赦す。

しかし、罰すべき者を必ず罰して、父の咎を子に、
さらに子の子に、三代、四代に報いる者である。」

■ 恵みは千代(永遠)、罪の悪影響は4代で断ち切られる。

■ 主は裁きを目前にして、なお民に悔い改めを促された。

エホヤキム王の罪と罰

- ヨシヤ王が、偶像の灰をまいた共同墓地に、
エホヤキム王は、預言者ウリヤの屍を捨てた。
→ 悔い改めず、主への背きを重ね続けた。
- **エホヤキム王**は、ネブカドネツアルの侵略を受け、
青銅の足かせにつながれバビロンに連行された。

エホヤキムの末路

■エレミヤ書22:18～19

それゆえ、ヨシヤの子、ユダの王**エホヤキム**について、
【主】はこう言われる。「だれも、『ああ、悲しい、私の兄弟よ。ああ、悲しい、私の姉妹よ』と言って彼を悼まず、だれも、『ああ、悲しい、主よ。ああ、悲しい、陛下よ』と言って彼を悼まない。

彼はエルサレムの門の外へ引きずられ、投げ捨てられて、ろばが埋められるように埋められる。」

ウリヤを投げ捨てた エホヤキムも投げ捨てられた

ウリヤとエレミヤ 運命の分けたものは？

- 同じ預言を告げていたにも関わらず、ウリヤは殺され、エレミヤは助けられた。
- 預言の中心は、エジプトに頼らず、エジプトに逃げず、甘んじて、バビロニアの捕囚となること(24:5)
- ウリヤがエジプトに逃げたことが、問題だった？
とどまったエレミヤは、同じ状況の中でも助けられた。

主の御心に聞き従うということ

- ヤコブの時代には、エジプトが逃れの道だったが…。
- 捕囚を間近にした南王国においては？
 - ➡ ウリヤはエジプトへの逃亡は避けるべきだった!!
 - ➡ エルサレムにとどまり、預言をするのが使命
 - ➡ 捕囚を甘受するのが、イスラエルの生きる道

それぞれの時代の主の命令を正確に聞き取る!!

今の時代への主の命令は？

■主イエスの再臨を待ち望みつつ Ⅱ テモテ4:1～2

神の御前で、また、生きている人と死んだ人をさばかれるキリスト・イエスの御前で、その現れとその御国を思いながら、私は厳かに命じます。

みことばを宣べ伝えなさい。時が良くても悪くても
しっかりやりなさい。忍耐の限りを尽くし、絶えず
教えながら、責め、戒め、また勧めなさい。

福音を宣べ伝え 互いに信仰を育みあっていく

今の時代への主の警告

■終わりの時代の教会への警告 II テモテ4:3～4

というのは、人々が健全な教えに耐えられなくなり、耳に心地よい話を聞こうと、自分の好みにしたがって自分たちのために教師を寄せ集め、真理から耳を背け、作り話にそれて行くような時代になるからです。

■「平安だ」という偽預言になびいた南王国のように、終末が近づく今の時代も、偽の教えがはびこっていく。

今の時代への主の警告

■ 周囲がどうあろうとも Ⅱ テモテ4:5

けれども、**あなたは**どんな場合にも慎んで、苦難に耐え、伝道者の働きをなし、自分の務めを十分に果たしなさい。

■ 問われているのは、**私たち一人一人。**

➡ 主の招きに応答するかどうか
誰のせいにもできない

キリストのからだ・教会の一部として

■ 周囲がどうあろうとも エペソ4:13～15

私たちはみな、神の御子に対する信仰と知識において一つとなり、**一人の成熟した大人**となって、キリストの満ち満ちた身丈にまで達するのです。

こうして、私たちはもはや子どもではなく、人の悪巧みや人を欺く悪賢い策略から出た、どんな教えの風にも、吹き回されたり、もてあそばれたりすることがなく、

むしろ、愛をもって真理を語り、あらゆる点において、かしらである**キリストに向かって成長する**のです。

どうしたら成長できるのか？

①聖書の呼びかけは、「私たち」

信仰共同体・**教会につながっている**ことは大前提

②キリストについての**信仰と知識を正しく身に着ける**

③愛をもって真理を語り、**福音を告げ知らせていく**

■教会に連なり、聖書を学び、福音宣教に遣わされて行く

→挫折も失敗もつきもの。打ち砕かれて悔い改める

→自分の無力さを痛感したら、御霊に委ねるしかない

成長させてくださるのは神 信頼して実行して行こう

★ 成長は、信仰者に託された責務 ★

■ 偽の教えに惑わされないために必要なのが**信仰の成長**。
今の時代への主の警告と教えを、正しく理解しよう。
人々への愛をもって、真理を告げよう。

■ 時が良くても悪くても、邁進すべきは、**福音宣教**。
互いに責め、戒め、勧め合って、キリストに向かい、
御霊に満たされ、主の助けの内に、成長していこう。

福音宣教と主の愛の実践が、私たちを成長させていく

てん　とう　わたし　つみ
「天のお父さま。私たちの罪をゆるしてください。

わたし　かみ　みこ　しゅ
私たちは、神の御子、主イエス・キリストが、

わたし　つみ　あがな　じゅうじか　し
①私たちの罪を贖うために十字架で死なれ、

はか　ほうむ
②墓に葬られ、

みっかめ　ふっかつ　しん
③三日目に復活されたこと、を信じます。

わたし　しゅ　あい　こ　せいちょう　きたい
私たちは、主に愛された子どもとして、成長を期待されています。

みことば　もと　まな　しゅ　わたし　せいちょう
御言葉を求め、学びます。主よ、私たちを成長させてください。

いつわ　おし　まど　いしずえ　かた　た
偽りの教えに惑わされない、キリストの礎に堅く立たせてください。

しゅ　しんり　あい　わたし　ふくいんせんきょう　つか
主の真理と愛をもって、私たちを福音宣教に遣わしてください。

しゅ　な　いの
主イエス・キリストのみ名によって祈ります。　アーメン」